

---

**Interstage Interaction Manager V9**

**Oracle Database 11g 適用手順書**

---

---

# はじめに

---

Interstage Interaction Manager V9 ポータル機能は、データベースにOracle Database 11gを使用する場合、Oracle Database 10gのJDBCドライバを使用します。

本書は、製品マニュアル「Interstage Portalworks セットアップガイド」から追加になるOracle Database 11gの適用手順を記載したものです。

製品マニュアル「Interstage Portalworks セットアップガイド」と異なるセットアップ手順を抜粋して説明します。

## 略称

本書に記載されている製品の名称は、以下のように省略して表記する場合があります。

略称	正式名称
Interaction Manager	Interstage Interaction Manager
Solaris	Oracle Solaris

## 対象バージョン

Oracle Database 11gが使用可能なInteraction Manager V9のバージョンは以下のとおりです。

- Interaction Manager V9.1.1 (Windows)
- Interaction Manager V9.1.1 (Solaris)

## 登録商標

- Microsoft Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- その他、使用している会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。
- 本書に記載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示 (TM・®) を付記しておりません。

## 改版履歴

2011年11月 初版

## お願い

- 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

## 著作権

Copyright 2011 FUJITSU LIMITED

---

## 目次

第1章	セットアップ手順 (Windows) .....	3
1.1	RDBMSのインストール／リポジトリ用RDBの作成.....	3
1.2	JDBCドライバのインストール.....	3
1.3	Interstage Portalwoksのインストール.....	4
第2章	セットアップ手順 (Solaris) .....	5
2.1	RDBMSのインストール／リポジトリ用RDBの作成.....	5
2.2	JDBCドライバのインストール.....	5
2.3	Interstage Portalwoksのインストール.....	6

---

# 第1章 セットアップ手順 (Windows)

Interaction Manager V9.1.1 (Windows版) について説明します。

## 1.1 RDBMSのインストール／リポジトリ用RDBの作成

1. Oracle Database 11gをインストールします。
2. リポジトリ用RDBを作成します。  
「Interstage Portalworksセットアップガイド」の「2.1.2 RDBMSのインストール／リポジトリ用RDBの作成」の「Oracle 10g」の説明に従って作成します。

## 1.2 JDBCドライバのインストール

「Interstage Portalworksセットアップガイド」の「2.1.3 JDBCドライバのインストール」を参照しながら、下記のセットアップを行います。

### Oracle Databaseクライアント/JDBCドライバのインストール

Portalworksサーバに、Oracle Database 10gのOracle Databaseクライアントをインストールします。

Oracle Databaseクライアントがない場合は、Oracle Database 10gのJDBCドライバ(ojdbc14.jar、orai18n.jar)をダウンロードし、インストールします。JDBCドライバのコピー先は、以下のディレクトリ構成としてください。

[親ディレクトリ]¥jdbc¥lib¥ojdbc14.jar [親ディレクトリ]¥jlib¥orai18n.jar
--

例えば、C:¥oracle¥product¥10.2.0¥Db\_1にコピーする場合は、以下の構成にします。

C:¥oracle¥product¥10.2.0¥Db_1¥jdbc¥lib¥ojdbc14.jar C:¥oracle¥product¥10.2.0¥Db_1¥jlib¥orai18n.jar
--

### ポイント

必ず、「Oracle Database 10g」のOracle Databaseクライアントまたは、JDBCドライバをインストールしてください。  
Oracle Database 10gのJDBCドライバは、Oracleダウンロードサイトより入手してください。

---

### Interstage Application Serverへの設定

Interstage Application Serverのインストールが完了したら、Interstage Application Serverの管理コンソールでJDBCドライバのクラスパスの設定を行います。

JDBCドライバをインストールした場合の設定値は、「Interstage Portalworksセットアップガイド」の「2.1.3 JDBCドライバのインストール」に記載されたパスではなく、以下の値を設定します。

[Oracle JDBCドライバ・格納先ディレクトリ]¥ojdbc14.jar
---

---

## 1.3 Interstage Portalwoksのインストール

「Interstage Portalworksセットアップガイド」の「2.2.3 インストールの実施」に従って、Interstage Portalworksをインストールします。「Oracle連携のJDBC設定」では、以下のセットアップを行います。

### Oracle連携のJDBC設定

- Oracleのバージョン：「Oracle 10g」を選択します。
- フォルダ名：JDBCドライバをインストールした場合、フォルダ名には「1.2 JDBCドライバのインストール」でJDBCドライバをコピーしたディレクトリを指定します。

---

## 第2章 セットアップ手順 (Solaris)

Interaction Manager V9.1.1 (Solaris版) について説明します。

### 2.1 RDBMSのインストール／リポジトリ用RDBの作成

1. Oracle Database 11gをインストールします。
2. リポジトリ用RDBを作成します。  
「Interstage Portalworks セットアップガイド」の「2.1.2 RDBMSのインストール／リポジトリ用RDBの作成」の「Oracle」の説明に従って作成します。

### 2.2 JDBCドライバのインストール

「Interstage Portalworks セットアップガイド」の「2.1.3 JDBCドライバのインストール」を参照しながら、下記のセットアップを行います。

#### Oracle Databaseクライアント/JDBCドライバのインストール

Portalworksサーバに、Oracle Database 10gのOracle Databaseクライアントをインストールします。

Oracle Databaseクライアントがない場合は、Oracle Database 10gのJDBCドライバ(ojdbc14.jar、orai18n.jar)をダウンロードし、インストールします。JDBCドライバのコピー先は、以下のディレクトリ構成としてください。

[親ディレクトリ ]/jdbc/lib/ojdbc14.jar
[親ディレクトリ ]/lib/orai18n.jar

例えば、/u01/app/oracle/product/10.2.0/db\_1にコピーする場合は、以下の構成にします。

/u01/app/oracle/product/10.2.0/db_1/jdbc/lib/ojdbc14.jar
/u01/app/oracle/product/10.2.0/db_1/lib/orai18n.jar

#### ポイント

必ず、「Oracle Database 10g」のOracle Databaseクライアントまたは、JDBCドライバをインストールしてください。  
Oracle Database 10gのJDBCドライバは、Oracleダウンロードサイトより入手してください。

---

#### Interstage Application Serverへの設定

Interstage Application Serverのインストールが完了したら、Interstage Application Serverの管理コンソールでJDBCドライバのクラスパスの設定を行います。

JDBCドライバをインストールした場合の設定値は、「Interstage Portalworks セットアップガイド」の「2.1.3 JDBCドライバのインストール」に記載されたパスではなく、以下の値を設定します。

[Oracle JDBCドライバ・格納先ディレクトリ]/ojdbc14.jar
---

---

## 2.3 Interstage Portalwoksのインストール

「Interstage Portalworks セットアップガイド」の「2.2.3 セットアップの実施」に従って、Interstage Portalworks をインストールします。リポジトリシステムに関する設定では、以下のセットアップを行います。

### リポジトリシステムに関する設定 : Oracle

- 連携するOracleのバージョン：デフォルト値「Oracle version : Oracle10g」を確認し、「y<RETURN>」を入力します。
- Oracleのインストールディレクトリ：JDBCドライバをインストールした場合、ディレクトリ名には「2.2 JDBCドライバのインストール」でJDBCドライバをコピーしたディレクトリを指定します。